

内容評価基準報告書

評価	A-1-(1) 子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整備している
【講評】 学校生活での緊張感をほぐして、家に帰って来たようにゆったりと過ごせる場を目指して、スペースの一部には畳を敷き上履きの室内での使用を取りやめました。疲れてしまった時などには、畳の上でゴロゴロと寝転んで過ごすこともでき、リラックスできる空間になっています。今年度開設したばかりの施設のために、大人主導で大人が一方的にルールを決めるのではなく、子どもと一緒に話し合って作り上げていくことを大切にしています。	
評価	A-1-(2) 放課後児童クラブにおける育成支援
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子どもが放課後児童クラブに自ら進んで通い続けられるように援助している
【講評】 保護者が仕事のために仕方なくクラブに通うというのではなく、子どもたちにとってここが楽しい場所、来たくなる場所になるように、季節の行事にちなんだ掲示をしたり、毎月季節の工作を行うなどの工夫をしています。長期休みの際にはハーバリウム作りや化学遊びなど外部講師を招いたイベントなども実施しています。毎月発行している学童だよりには子どもたちの様子がわかる写真を掲載して、保護者に伝えています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②子どもの出欠席を把握し、適切に援助している
【講評】 電話連絡受付簿を作成し、当日の欠席連絡を一覧表で記録しています。受付簿には留守番電話の内容も記録して、受け付けた職員名も記録に残るようにしています。居残り学習などで登所が送れる子どもについては、学校と相互に連絡を取り合い適切に把握することに努めています。欠席や降所時間が一目で分かるように、ホワイトボードに氏名を張り出して職員間で共有しています。	
評価	A-1-(3) 子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるように援助している
【講評】 子どもミーティングを開いて、遊びのルールや行事の企画などを一緒に創っていくというスタンスを大事にしています。子どもたちが改善してほしいことや、やってほしいことなどの意見を自由に投稿できる『アイデアBOX』を設置して、出された意見に対して子どもミーティングで他の子どもたちにも意見を聞き取り入れていくなど、子どもたちが主体的に関わる機会を多くしていくことで、生活にも見通しが持てるようになっています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②日常生活に必要となる基本的な生活習慣を習得できるように援助している
【講評】 手洗いや水分補給、衣服の調整など子どもたちの健康維持に必要な生活習慣などについては、今日の予定などを掲示するホワイトボードに必要に応じて記載したり、その都度声掛けをして身に着くようにしています。また、おもちゃの片付け方やトイレの使い方などでトラブルが起こった際には、子どもたちにも出来事を伝えて、どうすればよいかを全体で考えられるようにしています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	③子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している
【講評】 毎月開催しているお買い物ごっこのような行事や季節のイベントなどについては、上の学年の子が主体になるのではなく、スタッフや係を公募して開催しています。子どもたちを学年でくくるのではなく、一人ひとりの発達や個性、意欲を尊重して、自分自身で関わり方を選べるようにしています。外遊びが苦手な子どもや何ごとにも消極的な子どもに対しては、個別に声をかけてできることを一緒に相談するなど、やる気を引き出す関わりをしています。	

<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	④子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している
【講評】 異学年での交流などを促すために、9月から班活動も取り入れています。全学年が一斉帰宅となる毎週水曜日には、班ごとにおやつを食べたり、班対抗のゲーム大会なども実施する中で、班長のリーダーシップなども育っています。毎月班替えを行って、交流できる範囲を広げる工夫もしています。日頃の子どもたちの関係性の把握を丁寧に行い、トラブルが起こりそうな気配を察知した際には、何気なく職員が間に入るようにして未然に防げるように取り組んでいます。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	⑤子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助している
【講評】 『子どもが自分の思いを出せる場所であること』という基本方針に基づき、子どもの意見やアイデアを聞くということに力を入れています。イベントのネーミングを募集して、話し合っ決めて、アイデアBOXに寄せられた意見を見過ごすことなく取り上げて、話し合いのテーマにしています。外部講師による自分自身を大切にするための性教育の講座を開催して、きちんと「いや」が言えるように援助しています。	
評価	A-1-(4) 固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受入れに努めている
【講評】 入所の決定等は全て市で行っていますが、『異年齢の子どもたちや障がいを持った子どもたちと一緒に生活し、どの子ども大切にされる育成をめざす』との運営理念にもとづき受け入れを行っています。音に過敏で室内に居られないなど特に支援が必要な子どもの受入れに当たっては、入所の際に情報の引継ぎなどが実施されない場合もあるため、保護者との個別面談を実施してその特性や関わり方などについて共有して対応にあたっています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②障害のある子どもの育成支援に当たっての留意点を踏まえ、育成支援を行っている
【講評】 集団生活の場での気になる行動などについては、毎月の指導計画や職員会議記録にも個別の様子を記録して、職員間で留意点などを共有して育成にあたっています。毎月1回作業療法士が来所して子どもたちの様子を直接見ていただき、職員の関わり方などについてアドバイスを受けています。その子の良い面、良い行動などを言葉にして周りの子どもたちにも伝えて、ネガティブなレッテルが貼られないよう配慮しています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	③特に配慮を必要とする子どもへの対応に当たって、関係機関と連携して適切な支援を行っている
【講評】 日常の保護者とのやり取りなどを通して家庭での養育状況に課題があるのではないかと感じた場合などには、子どもの様子なども個別に記録に残して職員間で共有すると共に、家庭へのアプローチも行っていますが、中々保護者との連携が難しいケースも見受けられます。毎年1回、運営法人や専門家が参加する事例検討会議なども実施しており、必要に応じて学校や子ども家庭支援センター、児童相談所などと情報交換を行います。	
評価	A-1-(5) 適切なおやつや食事の提供
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	①放課後の時間帯におやつを適切に提供している
【講評】 毎週1回、班活動の一環として一斉におやつを食べる時間を設けていますが、行事などが無い時には、自分のタイミングでおやつを選ぶようにしています。おやつを食べ終えたかどうかのチェックリストなどは設けていませんが、おやつ担当の職員がどの子が食べていないかなどについては把握をするようにしています。焼き芋やチョコバナナ、フルーツポンチ、かき氷などクラブ内で子どもたちと一緒に作る手作りおやつも取り入れています。炊飯器も購入し、おにぎりなどをクラブ内で作っています。	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	②食に伴う事故（食物アレルギー事故、窒息事故、食中毒等）を防止するための対応を行っている

【講評】

三角プレートを立てておやつを食べるテーブルと学習などを行うテーブルとを分け、遊び食べなどによる誤嚥などが起こらないようにしています。食物アレルギーをもつ子どもに対しては、おやつの皿に名前とアレルギー源となる食材名などを明記して、誤食が起こらないようにしています。食物アレルギーや食中毒などが起きてしまった際の対処法などについては、不安感を持つ職員が多い様なので、再度マニュアルの整備や研修などの実施も求められます。

評価

A-1-(6) 安全と衛生の確保

あり なし

①子どもの安全を確保する取組を行っている

【講評】

子どもたちの帰宅経路の一部に大雨の際に冠水するポイントなどがあり、隣接する他のクラブとも連携を取り帰宅を見合わせて待機させるなど、子どもたちの安全に配慮した臨機応変に取り組みを行っています。地域のボランティアの方が定期的に来所して、子どもたちに囲碁を教えてくれるなどの交流が図られています。市内の他法人や、警察の生活安全課と連携し子どもが自分で自分の身を守るための学習の機会なども作っています。

あり なし

②衛生管理に関する取組を適切に行っている

【講評】

『きれいに片付けて子どもたちを迎える』をモットーに、1週間の清掃チェックリストや掃除のやり方などをまとめた説明書などを作成し、衛生管理に努めています。おもちゃの片付けやおやつのテーブルを拭くなど、子どもたちと一緒にできることは、相談しながら子どもたち自身でできるようにしています。個人の道具箱の整理整頓などについては、学期末などに定期的に行っています。

評価

A-2-(1) 保護者との連携

あり なし

①保護者との協力関係を築いている

【講評】

保護者の目線に立って、わかりやすい情報提供を行うことを大切にしています。毎月発行している学童だよりはあえて情報量を減らして、視覚から様子が伝わるように写真を活用する工夫をしています。全家庭を対象に個人面談を実施したり、年度末には子どもの成長を保護者に見てもらえるような行事を企画するなど、コミュニケーションを図り信頼関係が築けるように努めています。

評価

A-2-(2) 学校との連携

あり なし

①子どもの生活の連続性を保障するため、学校との連携を図っている

【講評】

1つの学校に第1から第3までの学童クラブがあり、学校は第1に連絡をすれば全部の学童クラブに伝わるものとの認識を持っている様子がありません。学校行事についての連絡や学校だよりなどについても、第1学童クラブを経由しています。そのため個別の子どもたちの状況などについて、必要があれば担任と情報共有を行っています。

評価

A-3-(1) 子どもの権利擁護

あり なし

①子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている

【講評】

子どもを一人の人間として尊重し子ども扱いをしないという考え方が、職員間で共有され浸透しています。子どもの話をしっかり聞くことや否定的な言い方をしないことなども、日々の関わりの中で大切にしています。『同意』や性教育に関する絵本なども子どもたちの目に付きやすいように掲示して、子ども自身が自分の権利や身を守る方法などについて学べるようにしています。